

図書だより No.3

令和7年11月4日 図書委員会

2学期は、文化祭・体育祭・クラスマッチと行事がたくさんありましたね。授業と行事のけじめをつけて規則正しい生活はできていますか？

来月には文化鑑賞会があります。今年の文化鑑賞会は古典芸能「学校寄席＋講談（怪談）」です。今回の図書だよりは、『文化鑑賞会』の事前学習として情報を載せてみましたので、少しでも興味を持ってくれたら嬉しいです。

「文化鑑賞会を行う3つの目的」

学校現場において、文化鑑賞会は普段の授業では味わえない特別な体験ができる、本当に貴重な行事であると感じています。しかし、文化鑑賞会の実態は、「毎年やっているから」といった惰性になってしまっていることも多く、行事としての意義が薄らいでいるように思います。では、そもそも『文化鑑賞会の目的』とはいったい何なのか…まとめてみました。

1. 芸術に実際に触れる機会

芸術は五感全てで感じるものだと思います。生徒達には、その「空気」を知った上で芸術の面白さを知って欲しい。多感な時期だからこそ感じるものも大きく、文化鑑賞会は、そんな芸術の印象を一度に変えてしまうだけの凄まじいパワーを秘めています。

2. 進路決定に役立つ

ある分野でのプロフェッショナルと出会うことは、皆さんが進路を決めていく上で確実に役立つ体験となります。

3. 異なる価値観を認める姿勢を身につける

文化鑑賞会を通して、何か一つの世界観に特化した芸術に触れ、その良さを理解しようと努める姿勢は、他者を尊重する姿勢を身につけて、異なる価値観を認めることへ自然とつながっていきます。

学校寄席

【文化鑑賞会】

2025年12月12日（金）

アイプラザ豊橋

プログラム

- 一、寄席入門 一龍斎貞橘
- 二、上方落語 笑福亭茶光
- 三、落語 桂宮治
～お仲入り（休憩）～
- 四、色物 柳貴家雪之介
- 五、講談【怪談】 一龍斎貞橘



桂宮治でございます。

日本テレビ『笑点』のメンバーです。
とにかく笑っていただけるように…
努力します！

桂宮治さんは、常に笑顔でいることを心がけており、「明るい所に花は咲く」という言葉を大切にされています。テレビやラジオにも多数出演しており、日本テレビの『笑点』では大喜利メンバーを務め、メンバーカラーは若草色です。また、TBS ラジオの『これが宮治でございます』などがあります。また、YouTube チャンネル「桂宮治の撮って出し！」も運営されています。

いちりゅうさいていさつ

一龍斎貞橘です！講談師として、古典講談を得意とし、怪談を演じます。「一番怖いのは人の心」という教えのもと、音響や照明を使った演出でザ・怪談話を披露します。迫力満点のライブ体験として、観客を魅了します。



一龍斎貞橘さんは、全国各地の「学校寄席」で講談を積極的に行っています。講談は、張り扇（はりおうぎ）を使ったりズミカルな語り口で歴史物語などを披露する日本の伝統芸能です。

はとバスの歴史ガイドの経験を持っており、これらの経験は、歴史上の人物や出来事を分かりやすく、かつ面白く伝える上で大いに役立っています。学校寄席では、皆さんが講談の世界に触れ、歴史や物語に興味を持つ良い機会となっているのではないのでしょうか。